

## 協会代表団が北京を訪問

# 丹羽新体制が本格始動 唐家璇氏らと会見

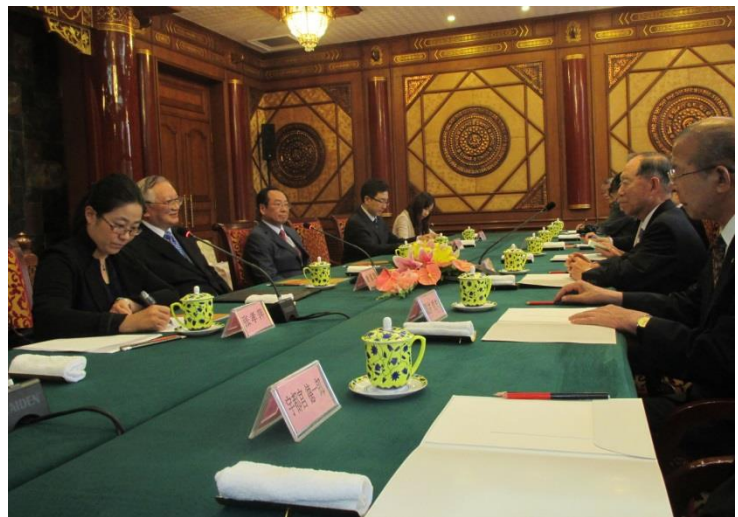
### 国交正常化 45 周年行事 連携強化し準備始める

丹羽宇一郎会長を団長とする（公社）日中友好協会代表団が 7 月 19 日から 21 日まで北京を訪れ、中国の政府機関・対日友好団体を相次いで表敬訪問した。丹羽会長の訪中は 6 月の会長就任後初めて。「丹羽新体制」が本格始動した。丹羽会長は北京到着後、まず駐中国大使時代から親交の深い唐家璇・中日友好協会会長(元国務委員)と会見。日中間の民間交流拡大に向け、一層連携を密にすることを確認した。

協会代表団は役員を中心とした 9 人で編成され、丹羽会長のほか加藤紘一前会長の娘で、6 月に協会顧問に就任した加藤鮎子氏（衆議院議員）らが参加した。

19 日午後、一行は釣魚台国賓館で中日友好協会の唐家璇会長と会見。唐会長は一行を歓迎し、丹羽会長の就任に祝意を表した。丹羽会長は「唐会長が励みであり、一緒に仕事をしたいと思った。だから会長を引き受けた」とあいさつした。

会見ではまず、唐会長が最近の日中関係について言及。2 度の首脳会談を経て両国関係は改善傾向にあり「友好の雰囲気がいぶ出てきている」と述べた。しかし、一方で歴史認識、領土、安全保障などの解決すべき問題はまだまだ多く、「全体的に見れば依然関係は脆弱で、国民感情も



唐家璇会長(左 2) と民間交流について話し合う丹羽会長(右 2)。2015 年 7 月 19 日、北京の釣魚台国賓館で

悪い」とし「双方の努力がまだ足りない」と指摘。民間交流を拡大させ、「その中で相互信頼、友好を発展させるほかない」と述べ、「特に若者が中日友好交流に携わる環境をつくるべきだ」と強調した。また、戦後 70 年については「この節目にいかにか歴史問題に対処するか。両国関係をさらに改善させるチャンスでもある」と述べ、日本政府が正しい歴史認識を示すことの重要性を強調。日中両政府間で交わした「4つの政治文書、4つの共通認識に基づき双方が前に向かって歩み、歴史を鑑として未来を展望する」ことが安定的な両国関係の発展につながるとした。協会に対しては「歴史問題を深く理解し、重視してきた」と評価し、「民が官を促す」活動に期待を寄せた。このほか、唐会長は安全保障面における日中双方の主張や中国側の懸念などについても言及した。

一方、丹羽会長は、唐会長が示した民間交流拡大への意欲などに対し「同感だ」と述べた上で次の 2 つのことを提案した。①2017 年の日中国交正常化 45 周年を祝う記念行事の開催準備を始めたい。双方の友好協会が共同で後押しし、政府にも働きかけていく②日中国交正常化 45 周年に向け、両国の友好都市にも地方間の交流を働きかけ、国民感情の改善につなげたい。そのための支援体制を両友好協会を整えたい。

唐会長は 2 つの提案に賛同し「責任をもって政府に伝えたい」と応えた。会見を通じ、双方は今後も互いに関係を密にし、意思疎通を心がけて交流事業に取り組むことで一致した。会見には中国人民対外友好協会の宋敬武副会長、王秀雲・中日友協副会長らが同席。会見後は唐会長主催の歓迎宴が開かれた。

なお、丹羽会長は翌 20 日午前、中日友好協会で在北京の日本メディア各社との懇談会に出席し、会見の内容を報告。日中関係改善に向け、協会として最大限努力し、45 周年事業の準備に取りかかる強い意欲を示した。

#### 協会代表団メンバー

丹羽宇一郎	会長(団長)
加藤鮎子	顧問
酒井哲夫	副会長
橋本逸男	副会長
宇都宮徳一郎	副会長
岡崎温	理事長
西堀正司	専務理事
大藪二郎	常務理事
永田哲二	常務理事



唐家璇会長（前列右 3）を囲んで

## 短い時間で充実の内容と成果

協会代表团は、丹羽新会長就任に当たり、中日友好協会をはじめとする関係機関・団体へのあいさつとして、急ぎ編成された。

一行9人の構成は、丹羽宇一郎会長、加藤鮎子顧問、酒井哲夫、橋本逸男、宇都宮徳一郎の副会長3人、岡崎温理事長、西堀正司専務理事、大薮二郎、永田哲二の常務理事2人で、7月19日から21日まで北京を訪問した。

19日、北京首都国際空港には、木寺昌人在中国日本国大使の出迎えを受け、そのまま大使館に直行した。昼食をはさみながら、首脳会談後の日中関係のことが話題となった。

夕は釣魚台国賓館で約1時間、唐家璇会長から日中関係についての講話があり、その後は和やかに懇談。丹羽会長は、①2017年の日中国交正常化45周年に日中共同の記念式典を開催したい②両国の友好都市約360組が行う文化、スポーツなどの多彩な交流が活発になるよう協力したい、と提案し、双方は緊密に民間交流を推進することを確認した。

20日午前、中日友好協会の会議室で、はじめて在京日本メディアとの懇談会。マスコミ10数社が集まり、各社から質問が相次いだ。

続いて中華全国婦女連合会を訪問し、孟曉駟副主席と懇談。加藤顧問とは「女性交流を拡大しましょう」と話し合った。昼は東京都日中友好協会と深い関係にある北京市人民対外友好協会の田雁常務副会長が主催する昼食会に招かれ、親戚訪問のようにぎっくばらんに話が弾んだ。

午後は中国外務省で劉建超外務次官補と会見。劉氏は「両国が平和発展の道を歩むこと



【上】木寺大使(前列左2)ら在中国日本大使館の方々と【右下】中国日本商会との懇談会  
【左下】孟曉駟中華全国婦女連副主席(右)と加藤顧問

が大切だ」と述べられた。夜は、日本大使館の肝いりで、中国日本商工会との懇談の席が設けられ、参加した同会の副会長7人（7企業の駐在トップら）から中国ビジネスの現状を聞いた。協会としてはこれも初めての企画で、経済界に顔の広い丹羽会長ならではの活動となった。

21日午前には中国文化省を訪問。会見した丁偉文化次官は「文化交流を積極的にやりたい」と話した。さらに中華全国青年連合会では周長圭副主席と会見。周副主席は「青年は現在を代表し、未来も代表する存在。活発な青年交流をやりたい」と述べた。

最後は、中日友好協会の王秀雲副会長主催の昼食会。王副会長とは、今後の友好交流事業における実務的な話を中心となった。

丹羽新会長のあいさつを兼ねた訪中活動は、短期間ながら充実した内容と成果で幕を閉じた。

（同行 常務理事・大藪二郎）



丁偉文化次官(右)との会見。中国文化省で